

ほけんニュース



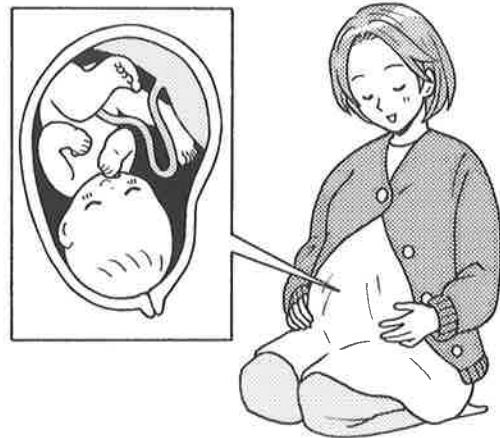
どうしておへそってあるの？

子どもが体に興味を持って、「どうして？」と聞いてきた時に、保護者自身が正しい知識を学んでおき、伝えることで、子どもの健康や豊かな心を育むことにつながります。

おへそは「お母さんにつながっていたしるし」

おなかの中の赤ちゃんは、へその緒を通して、お母さんから酸素や栄養をもらっています。反対に、おしっこなどのいらぬものをお母さんに送って、約10か月かけて大きく成長していきます。この「へその緒」がついていたところが、おへそです。

子どもに「どうしておへそってあるの？」と聞かれた時は、「あなたがおなかの中にいた時に、お母さんにつながっていたしるしだよ」と伝えてください。



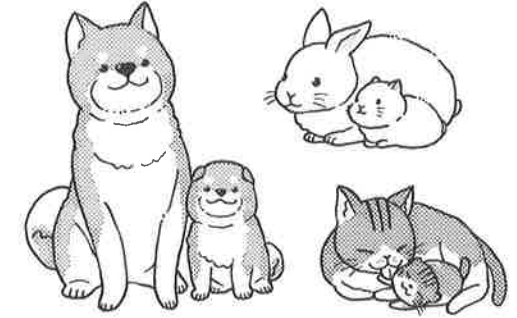
へその緒が取れて「おへそ」になる



生まれた後、へその緒は役目を終えて、切り取られます。赤ちゃんに残っていた部分も、しばらくたつと干からびて自然と取れ、そのあとが、「おへそ」になります。

人以外にもおへそがある動物はいるの？

イヌやネコ、ウサギなどの、赤ちゃんにおっぱいを飲ませて育てる動物（哺乳類）は、人と同じようにおへそがあります。海にいる動物のイルカも哺乳類なので、おへそがあります。一方で、鳥や魚などのように、卵から生まれる動物には、おへそがありません。



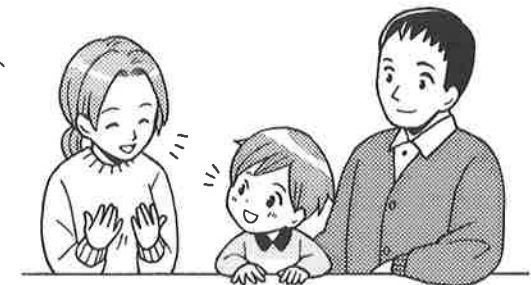
こんなに大きくなります

はじめは小さな受精卵ですが、おなかの中で約10か月かけて大きくなります。生まれた後もぐんぐんと成長し、5歳頃には、身長は出生時の約2倍に、体重は約6倍になります。



初めて会えた時の話をしてみませんか

お子さんが生まれた時や、初めて会えた時に、自分がどんな気持ちになったのかを、ぜひ子どもに伝えてください。この世に生まれてきた人のすべてが、尊い命なのだと気づくことで、ほかの人への思いやりの心が生まれ、自分のことも、相手のことも尊重し、大切にすることにつながります。



監修 帝京短期大学 名誉教授 宍戸洲美先生